

# 第3回 げんきプラザの在り方検討に関する 有識者会議

日時：令和5年11月17日（金）10:00～11:00

場所：埼玉県県民健康センター中会議室  
（ZOOMウェビナーによる同時配信）

### 1. 開会

### 2. 前回議事概要の承認

### 3. 議事

(1) げんきプラザの在り方検討に関する有識者会議提言（案）について

(2) その他

### 4. 閉会

資料 1 第3回有識者会議資料

# げんきプラザの在り方検討に関する有識者会議の概要

## 設置目的

人口構造・生活様式・体験活動に対するニーズなど**社会情勢の変化を踏まえたげんきプラザの県立施設としての役割や機能、運営方法を検討**するにあたり、体験活動や生涯学習に関する専門家をはじめ、校外行事で利用する学校関係者から意見を聴取

## 委員

氏名	所属等
青山 鉄兵	文教大学人間科学部准教授
安藤 秀一	行田市立忍中学校校長 (埼玉県中学校長会副会長)
坂口 緑	明治学院大学社会学部教授
鈴木 秀明	越谷市立大袋東小学校校長 (埼玉県公立小学校校長会幹事)
星野 敏男	明治大学名誉教授 日本キャンプ協会顧問
松村 純子	亜細亜大学国際関係学部特任教授 前独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立赤城青少年交流の家所長

※五十音順、敬称略

## 主な内容とスケジュール(予定)

- **第1回**  
日時：令和5年6月16日(金)  
内容：県立施設としての役割  
・げんきプラザについて  
・これからのげんきプラザの役割について
- **第2回**  
日時：同年8月22日(火)  
内容：県立施設としての機能  
有識者会議提言(案)の方向性  
・目指す県立社会教育施設像等
- **第3回**  
日時：同年11月17日(金)  
内容：有識者会議提言(案)について

## 1 検討テーマ

げんきプラザ設置にあたって整理した県の役割を踏まえ、今後の方向性をどのように考えるべきか

### 施設の利用実態

げんきプラザ設置時において、**県と市町村の役割分担について整理**している。

一方で、**現在の利用状況**においては、**日帰り利用**や**スポーツ利用が多い**状況が見受けられる。

### 施設設備の在り方

**共同生活の質を高める施設設備**とはどのようなものが考えられるのか。

**体験活動の質を高める施設設備**とはどのようなものが考えられるのか。

## 2 施設の利用実態

### (1) 設置の経緯

県では平成14年に、社会教育施設再編整備計画を定め、社会教育施設のうち利用者層や利用状況が設置当時と大きく変化した青年の家、少年自然の家などについて、**県と市町村との役割分担**の観点から、平成15年4月からげんきプラザとして再編整備を行った。

#### 青年の家

主として**勤労青少年の健全な育成**を図るための社会教育施設

#### 少年自然の家

**自然環境の中で少年の健全な育成**を図るための社会教育施設

#### 大滝グリーンスクール

高校の教育活動としての**集団活動**を通じて、**心身共に健康で人間性豊かな生徒の育成**を図るための施設

#### 市町村

地域に密着した様々なグループ活動の場として公民館やコミュニティセンターなど**日帰り施設**が中心

#### げんきプラザ

##### 必要な機能

- 自然体験など様々な体験活動を宿泊して行える機能
- 青少年だけでなく、すべての県民が利用し、交流できる機能
- 単なる参加・利用から、事業の企画運営までできる参画機能
- 県民の活動をサポートする圏域ネットワークの拠点機能

##### 県が果たす役割

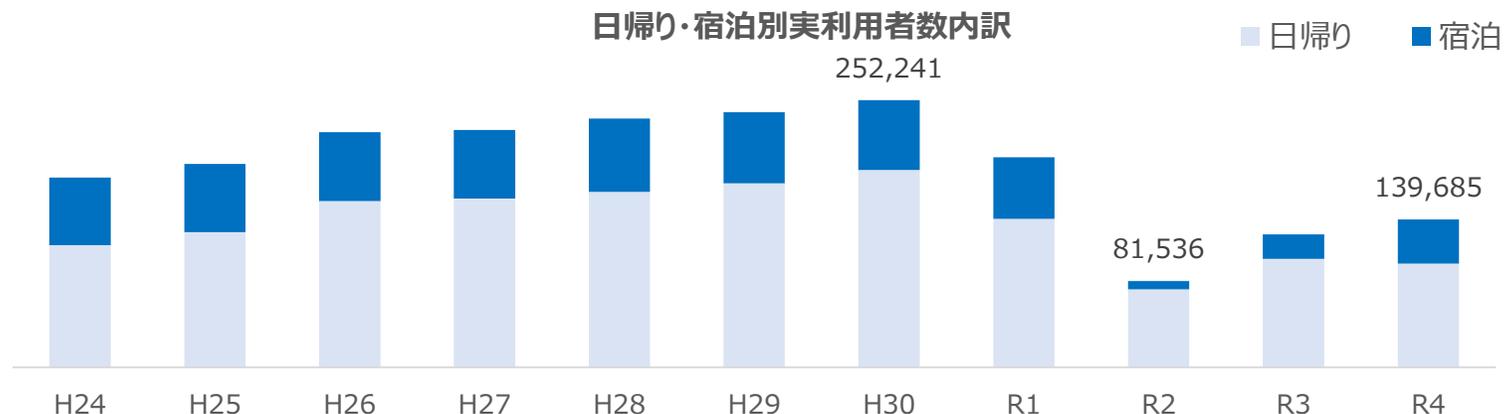
**市町村では設置が困難な宿泊機能**を備えた体験型施設において、**市町村単位では実施困難な広域的事業**を重点的に行ったり、広域的グループにネットワーク型の活動の場を提供する必要性

**集団宿泊活動、自然体験活動等**を通じて、**青少年の健全な育成**を図るとともに、県民の**生涯学習活動の振興**に資するための社会教育施設として、それまでの「青年の家」、「少年自然の家」、「大滝グリーンスクール」を廃止し、「げんきプラザ」に再編

# げんきプラザの運営上の課題について

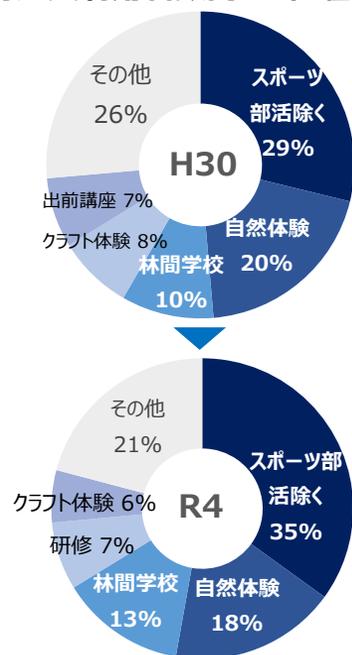
## (2) 利用状況

- ✓ 新型コロナウイルス感染症拡大前まで利用者は**増加傾向**
- ✓ 利用者全体の**日帰り利用**と**宿泊利用の割合**はおおよそ**7 : 3** (R2,R3を除く)

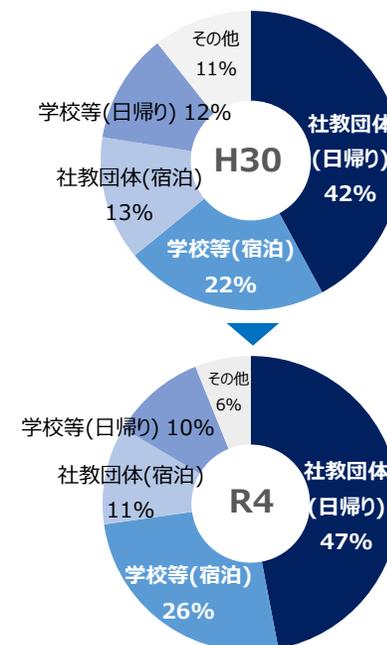


- ✓ **スポーツ利用**、自然体験、林間学校の順で割合が多い
- ✓ 利用団体別においては、日帰り利用の**社会教育団体**の割合が多い

目的別実利用者数内訳 (上位5項目)



団体別実利用者数内訳



【出典】いずれもげんきプラザ統計資料をもとに作成

※利用目的が複数ある場合は主なもの

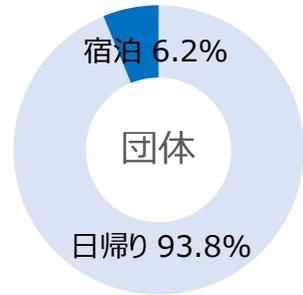
※学校等・・・保育・幼稚園、小・中・高・特支、大学・短大・専修・専門学校まで  
 ※社教団体・・・社会教育及び青少年教育団体

# げんきプラザの運営上の課題について

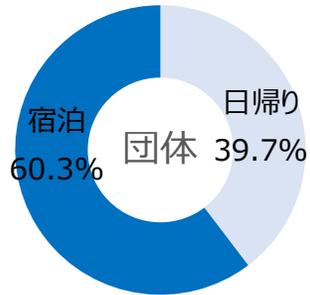
## (3) 日帰り利用と宿泊利用の状況

令和4年度における各げんきプラザの日帰り利用と宿泊利用（主催事業を除く）の団体及び実利用者の割合は以下のとおりである。

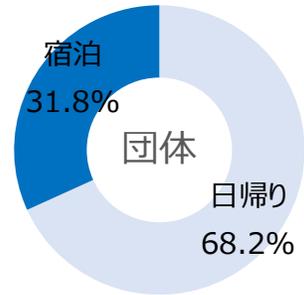
加須



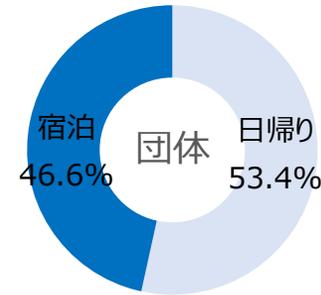
大滝



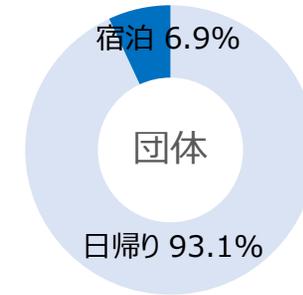
長瀬



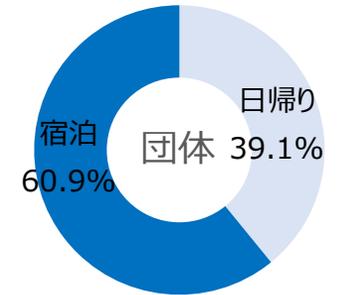
小川\*



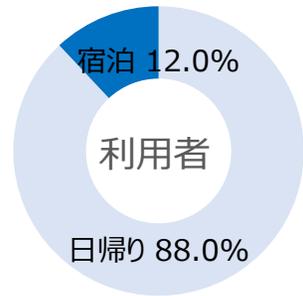
神川



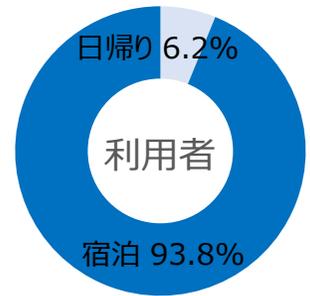
名栗



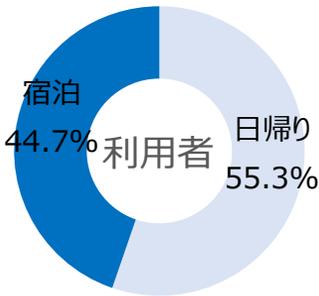
利用者



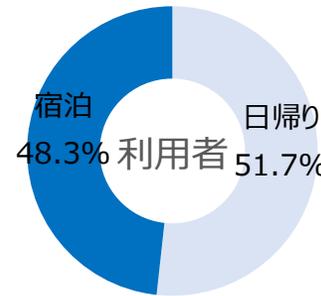
利用者



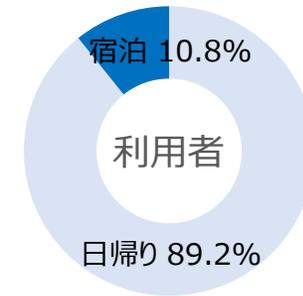
利用者



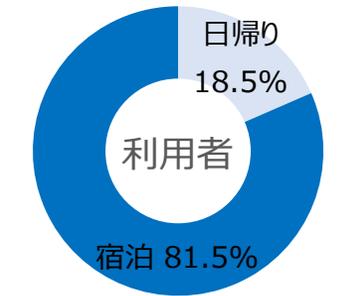
利用者



利用者



利用者



\*令和4年10月2日から令和5年3月31日まで  
大規模改修工事に伴い施設を休所

## げんきプラザの運営上の課題について

### (4) 学校による宿泊利用の状況

令和4年度における各げんきプラザの学校による宿泊利用の状況（部活動による利用を除く）は以下のとおりである。  
学校による宿泊利用は、部活動を除くと林間学校を目的としたものである。

	加須	大滝	長瀬	小川*	神川	名栗	計
小学校	1校	18校	22校	77校	14校	102校	234校
中学校	2校	41校	24校	4校	8校	7校	86校
特別支援学校	7校	0校	36校	8校	2校	8校	61校
計	10校	59校	82校	89校	24校	117校	381校

\*令和4年10月2日から令和5年3月31日まで大規模改修工事に伴い施設を休所

## げんきプラザの運営上の課題について

### (5) 現在実施している主な取組例

以下は、現在げんきプラザで実施している主な取組を記載したものである。保有施設や周辺の資源等を活用し様々な体験活動の機会を提供している。

#### 自然体験活動

- ✓ 小・中学生向けの宿泊を伴うハイキング、野外炊事、キャンプファイアなどの自然体験アクティビティ
- ✓ 家族向けの宿泊を伴うオリエンテーリング等の自然体験アクティビティ
- ✓ 一般向けのプラネタリウム鑑賞イベント

#### スポーツ活動（部活動除く）

- ✓ スポーツ少年団による練習や合宿、交流大会
- ✓ 社会人、高齢者団体によるスポーツ利用

#### ボランティア養成

- ✓ 自然体験・野外活動のボランティア養成研修

#### 出前講座

- ✓ 学校等へ出向き、仲間同士での交流を図る活動やクラフト作り体験、ピザ・うどん作り体験などを実施

#### 防災教育

- ✓ 家族を対象に避難所体験や防災クッキング、防災クラフトの作成等を実施

#### 研修・講座

- ✓ 民間企業やNPO、地域の団体の研修
- ✓ 地域の高齢者などに対するスマートフォンやSNS講座

#### 特別な支援が必要な児童生徒に対し体験活動の機会を提供

不登校や子どもの貧困などの現代的教育課題に焦点をあて、特別な支援が必要な児童生徒に対し体験活動の機会を提供

- ✓ **いきいき体験活動事業（障害のある児童生徒向け）**  
（例）特別支援学級や学校に在籍する子供と家族を対象にしたクラフト作りと郷土料理作りの体験プログラムを実施（名栗げんきプラザ）
- ✓ **わくわく未来事業（不登校傾向の児童生徒向け）**  
（例）登校に不安を抱える児童生徒と家族を対象に、水に関するSDGs学習、川のアクティビティを実施（長瀬げんきプラザ）
- ✓ **のびのびチャレンジ事業（経済的に困窮した家庭環境の児童生徒向け）**  
（例）ジュニアアスポートに通う小学生及び支援員を対象にうどんづくり体験（加須げんきプラザ）

#### 教科と関連付けた体験活動の推進

げんきプラザの体験活動プログラムを、学校の授業の中で活用するための授業案を立案し、試行を経て各学校へ展開

- ✓ **探検！発見！秩父の自然（大滝げんきプラザ R4.6試行）**

#### 趣味

- ✓ 大人向けの陶芸教室
- ✓ ピザ・うどん・そば作りなどの料理教室
- ✓ 音楽サークルの活動や練習

# げんきプラザの運営上の課題について

## (6) 県内市町村の社会教育施設等の状況

### 青少年教育施設

- ✓ 市町村立の青少年教育施設数は従来より**僅少**
- ✓ 長期的に**減少傾向**が続いている

### 公民館等

- ✓ **長期的には減少傾向**であるものの、**一定数設置**されている

### スポーツ施設

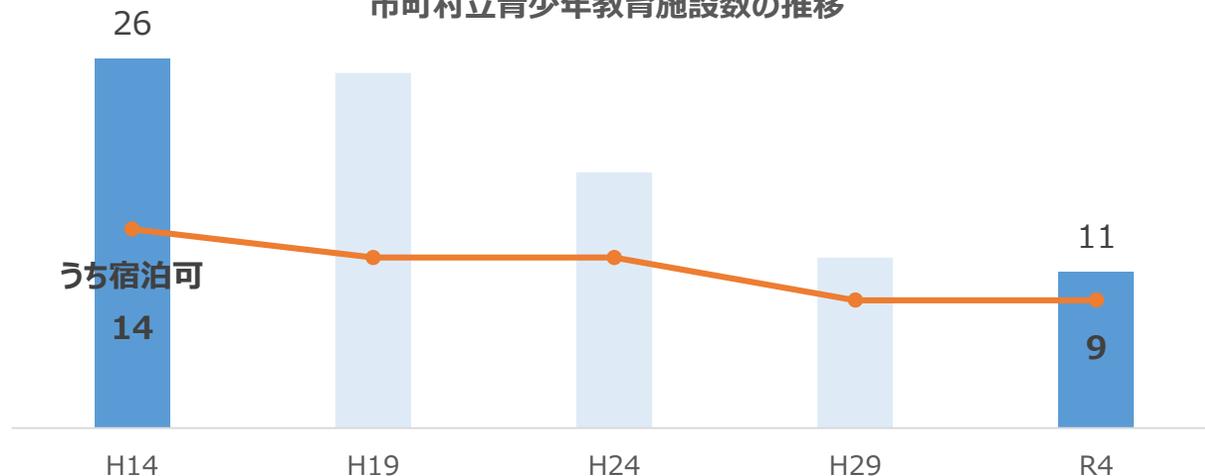
- ✓ 市町村立スポーツ施設は、1,655施設(令和3年度)\*
- ✓ **施設未設置の市町村はなし**

げんきプラザ所在市町村の状況は以下のとおり

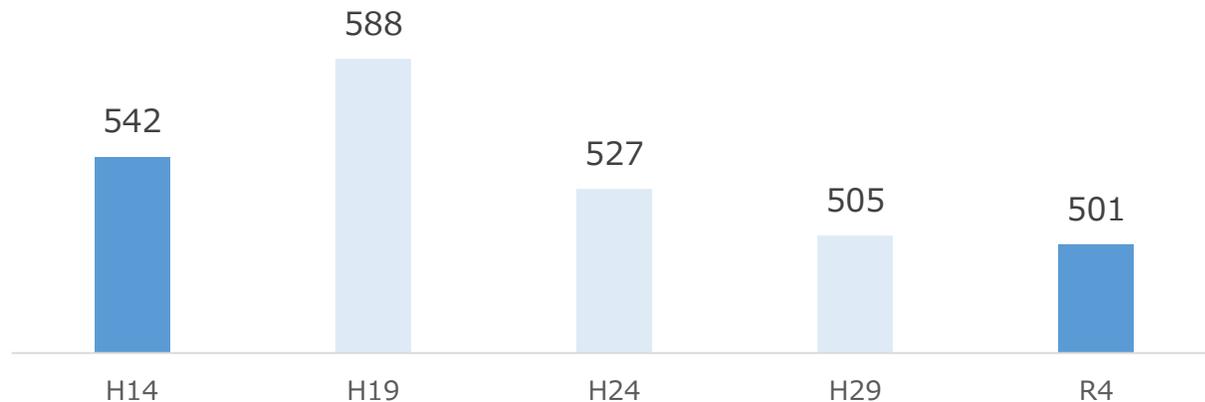
加須：47施設、秩父：59施設、小川：7施設、  
飯能：17施設、神川：7施設、長瀨：3施設

\*生涯スポーツの実態等に関する調査（埼玉県）

### 市町村立青少年教育施設数の推移



### 市町村立公民館等の推移



※H19以降は社会教育法第42条に規定する公民館類似施設のうち、市町村が条例で設置した施設で教育委員会が所管するもの(生涯学習センター、文化会館、集会所及び自治公民館を除く。)を含む。

【出典】上記いずれも埼玉県社会教育統計資料より作成

# げんきプラザの運営上の課題について

## 3 施設設備の在り方

多くのげんきプラザにおいて、建築後又は改修工事実施後相当な年数が経過しており、**施設の老朽化が進行**している。

	加須	大滝	長瀬	小川	神川	名栗
建築年度	S59	H4	H4	S46	S48	S56
改修年度(状況)	R1 (大規模改修)	H25 (中間改修)	—	R4 (中間改修)	H21 (中間改修)	H24 (大規模改修)
改修(建築)後経過年数	5年	10年	31年	1年	14年	11年
敷地面積	18,352㎡	204,018㎡	10,483㎡	430,917㎡	58,283㎡	107,893㎡
建物面積	4,926㎡	8,921㎡	3,765㎡	4,953㎡	2,764㎡	5,123㎡
宿泊可能人数(内訳)	100名 (宿泊室100名)	418名 (宿泊室400名) (テント18名)	140名 (宿泊室100名) (テント40名)	265名 (宿泊室150名) (テント15名) (バンガロー100名)	136名 (宿泊室100名) (テント36名)	400名 (宿泊室200名) (身障者用4名) (テント120名) (バンガロー76名)
主な保有施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 体育館</li> <li>● テニスコート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 体育館</li> <li>● 天文台</li> <li>● オリエンテーリングコース</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 体育館</li> <li>● 研修室</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● プラネタリウム</li> <li>● 活動センター</li> <li>● オリエンテーリングコース</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 体育館</li> <li>● グラウンド</li> <li>● テニスコート</li> <li>● アドベンチャーランド</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● プラネタリウム</li> <li>● プレイホール</li> <li>● キャンプファイヤー場</li> </ul>
アクセス	東武鉄道花崎駅 徒歩6分	関越自動車道花園 IC車1時間40分	秩父鉄道野上駅 徒歩10分	関越自動車道 嵐山小川IC車19分	関越自動車道 本庄児玉IC車18分	関越自動車道花園 IC車1時間

※上表のうち、建築年度、改修年度(状況)、改修(建築後)経過年数は、本館の状況をまとめたもの。

# げんきプラザの運営上の課題について

(参考) 設置場所

平成15年度の再編から現在に至るまで、げんきプラザは以下の6所体制で運営

平成19年度から一部に指定管理者制度を導入（名栗げんきプラザは平成19年度～、長瀬・小川・神川げんきプラザは平成23年度～）

**指定管理** 神川げんきプラザ S48

埼玉県の西北端、県立上武自然公園の一角に立地  
炊事場などの野外活動施設や、体育館、広大なグラウンド等を活用したスポーツ利用や体験活動を実施



**指定管理** 小川げんきプラザ S46

埼玉県西部の標高260mの山の頂に立地  
敷地内に遊歩道が整備され、バンガローや炊事場などの野外施設、プラネタリウムなど自然環境を生かした体験活動を実施



**直営** 加須げんきプラザ S59

駅から近く、唯一の都市型施設  
多彩な研修室や体育館、運動広場など人々が集う社会教育施設



**指定管理** 長瀬げんきプラザ H4

秩父地域の荒川沿いに立地  
キャンプ場等の野外活動施設や豊富な観光資源を生かした体験活動を実施



**直営** 大滝げんきプラザ H4

標高900mに位置し、集団宿泊や自然体験活動が可能  
400名が宿泊可能な大型施設



**指定管理** 名栗げんきプラザ S56

埼玉県西部の県立奥武蔵自然公園内に立地  
豊かな自然と、キャンプ場やプラネタリウム施設を活かした体験活動を実施



※施設名称の横は建物竣工年度

## 前回会議での主なご発言①

今後のげんきプラザの方向性について

### 方向性 1 に対する意見

- 気軽に利用できるという観点で日帰りのプログラムも必要だと思うが、学校利用を促進していくということであれば、宿泊を伴うことによって得るべき成果がたくさんあると思う。また、日帰りだとプログラムを詰め込みすぎてしまうこともあるので、子供たちと先生がゆとりをもって活動してもらうためにも、宿泊も重要である。したがって、宿泊を強調していくことには賛成である。

➡ **宿泊を伴う体験活動を強調していくことに対する賛同**

### 方向性 2 に対する意見

- 方向性 2 の前提として、「多様な子供たちへ体験活動の提供」という考え方がある。また、方向性を踏まえた機能の箇所で、「特別な支援」というワードが出てきたり、関連するものとして「不登校」もイメージできるので、方向性 2 の文章に「すべて」というキーワードを入れて、「すべての子供たち」という表現にしてもらいたい。

➡ **方向性 2 の記載を「『すべて』の子供たち」に修正**

### 方向性 3 に対する意見

- 様々な意味が含まれていると思うが、目指す方向性 1 と 2 に比べると、3 は抽象的であると感じる。機能の側面でもより具体的に記載していけるとよいと思う。

➡ **方向性 3 について「求められる県立施設としての機能」の箇所で具体化する必要性**

## 前回会議での主なご発言②

げんきプラザに求められる機能について

### 全般的な意見

- 自然環境が豊かな立地にある施設と、駅から比較的近い立地にある施設では置かれている環境が異なるので、今議論している求められる県立施設としての機能は、6所あるすべてのげんきプラザにおいて、あまねく当てはまるものではないように思う。
- げんきプラザ6所それぞれの地理的条件が千差万別なので、各施設が所有しているリソースは異なるが、施設ごとに方向性を完全に分けてしまうということではなく、求められる県立施設としての機能は、施設ごとの比重の置き方が異なるだけであって、どの施設にも共通に必要な要素はあるのではないかと思う。県立施設としてアウトラインをきっちり固めていくことにより、県民にわかりやすいげんきプラザになってくると思う。

➡ **各施設によって比重の置き方は異なるものの、げんきプラザとしてこれからの方向性を示すことが重要**

### 方向性 1 の機能に対する意見

- 豊かな自然だけでなく宿泊ができるということが重要である。たとえば、仲間同士でご飯を作ったり、布団を敷いたりなど、共同で生活ができるという要素は重要である。普段できない体験の中に、自然という要素だけではなく、共同で生活できる場だということを記載できるとよい。
- 企業研修の場としても活用されている。かつて実施していたように、体験型の宿泊施設という特徴を生かして、教員同士が交流するという機能を備えられるとよいと思う。

➡ **宿泊活動を通じて、仲間同士が共同で寝食を共にする生活の要素や交流を促進する要素が重要**

- げんきプラザに体験活動の専門家がいることによって、様々な利用者が、安心して且つ安全で快適に利用できるっていう部分につながると思う。そこが前提としてあることによって、げんきプラザに行きたいなという気持ちになったり、げんきプラザに行くと子供たちにとっていろいろ学ぶことができるのではないかという安心感が持てるのだと思う。

➡ **体験活動に関するプロがサポートするということを打ち出すことによって、利用者の安心に繋がる**

## 前回会議での主なご発言③

げんきプラザに求められる機能について

### 方向性2に対する意見

- 学校の教育活動をきちんとバックアップして学校教育の機能強化する施設であるということ、体験活動の専門家がサポートして、学校の教育課程を強める役割も持っているということを、方向性や機能の部分に、直接的な表現で記載してもよいのではないかと思う。  
➡ げんきプラザは学校教育を支援する機能を求められている旨を直接的に記載した方がよい
- 学校現場では、不登校や人間関係調整能力が課題だと認識している。その観点から、子供たちの交流が図られるプログラムを機能として持っている则安心して利用できる。「子供たち同士の交流」というようなキーワードが入ってくると、課題解決の方向性を示せると感じた。  
➡ 不登校など課題を抱える子供たちへの対応として、子供たち同士の交流が図られる機能を有していると安心の利用につながる

げんきプラザに求められる機能について

### 方向性3に対する意見

- 生涯学習の場でもあり、同時に、生き生きとアクティブに生活を送っていくための活動ができる場であると捉えられる。生涯学習の一部であるが、県民が健康的に生きていくための施設だという言い方ができると、少し厚みを持たせることができるのではないかと思う。

➡ げんきプラザは、県民が健康的に人生を送っていくために必要な施設である旨を記載した方がよい

- げんきプラザはボランティア活動を行える場でもあると思う。生涯学習を支援するという部分を踏まえると、地域とか社会とつながって活動する場という部分を具体的に記載してもよいと思う。

➡ げんきプラザは、県民が地域や社会とつながって活動する場である旨を記載した方がよい

- げんきプラザを生涯学習を幅広く推進していく拠点として考えた場合に、関係機関や団体等とのネットワークがすごく重要であるので、ネットワークという言葉に記載できるとよい。県有や国立、市町村の生涯学習や青少年教育施設などと連携して取組をやっていけるとよい。

➡ げんきプラザは関係機関や団体と連携し、生涯学習を幅広く推進していく場であることから、ネットワークという要素を記載した方がよい